

第一回キリスト教講演会

「聖公会というキリスト教会と大学 — ガラテヤの信徒への手紙 5 : 13～14 を読む」

桃山学院学院長 磯 晴久

磯は、2017年1月26日～2月6日英国カンタベリーで開催された新任主教研修会に参加した。ベイビービショップ、生まれたての主教の研修会で、ここ3・4年の間に主教に按手されたものが参加資格を持つ。しかし退職記念に参加した主教もいた。参加者：オーストラリア カナダ インド（北インド合同教会 南インド合同教会）

コンゴ イギリス ガムビア ギアナ ケニア モザンビーク 南アフリカ
南スーダン メラネシア（ソロモン群島） タンザニア アメリカ 日本
聖公会という教会はこのように世界的な広がりをもつキリスト教会です。

日本聖公会とは？一番手っ取り早い説明は、「英国教会の流れを汲む教会」ということです。ロンドンを訪れたことのある方は、聖パウロ大聖堂やウエストミンスター・アビーなどを思い浮かべ、「あの教会が属するキリスト教か」と思われるでしょう。

160年前聖公会の宣教師、伝道主教として長崎に初めて足を踏み入れたのはアメリカ聖公会からやってきたウィリアムス主教。え、英国じゃないの？アメリカなの。

聖公会のことを英語で、アングリカン・チャーチ（英国の教会）、全世界の聖公会のことを、アングリカン・コミュニオンと申します。現在世界の聖公会の会員は8000万人（日本15000人）。

確かに、聖公会の源流は16世紀の英国教会にあります。ヘンリー8世の離婚劇と彼の女好きは確かに、引き金にはなりました。しかし大きな要因は当時ヨーロッパにあった改革・独立への思い。英語聖書・英語の祈祷書の作成に向かわせた原動力でした。

英国で始まった教会が、アメリカ独立運動を契機に、海外ではじめてアメリカ聖公会（プロテスタント・エписコパル・チャーチ・イン・USA）が誕生します。アジアへの福音宣教の熱意にかられたウィリアムスが、まず日本に聖公会の信仰を伝え、日本聖公会の礎を築かれた。キリスト教禁教の高札がある時代、1859年長崎から1862年大阪川口（日本語の勉強と祈祷書の翻訳作業 与力町 近くに新島襄も住んでいた。同志社を大阪に設立したかった。残念ながら京都へ）1873年キリスト教禁制高札撤去。

この数年間、ウィリアムス主教は、全く行き先が見えない、見通しが無い中、ずっと日本にとどまり、宣教の機会をうかがっていました。全く希望も展望もない中、ひたすら祈り（英語礼拝の実施、英国人のため、そこに日本人も参加）、学び（3年間で日本語を自由に操るよう）、準備（聖公会は祈祷書、その日本語訳）をしました。その心中やいかにばかりであったか。私は敬服するのです。ウィリアムス主教のエピソード 生活がとても質素で、何回も破れを手直しした服とコートを身に付け、ポケットには貧しい人に分かち与

える小銭と甘いものを買うことができないこどもたちのために金平糖を入れていた。自分の収入の大半は貧しい人や教会のためにささげた方であった。伝道の熱意と日本人への愛に生きた方でありました。

彼の祈りが神に届いたのでしょうか。1873年キリスト教禁止の高札の撤去。ウィリアムスは男子校を開校。1879年英語塾を宣教師たちと開き、聖テモテ学校(英和学舎)、聖テモテ教会設立。この聖テモテ教会が聖聖慰主教会と合併し、現在の川口基督教会になる。1874年ウィリアムス主教は東京へ。立教学院を設立。川口居留地では、三一小学校・三一神学校(現在の桃山学院)、永生女学校(現在のプール学院)、エディーの学校・照暗女学校(現在の平安女学院)、一連の聖公会の学校が建てられた。聖バルナバ病院も設立されました。

閑話休題

黒船をひきいて日本来航したペリー提督は、アメリカ聖公会の熱心な信徒家庭に育ちます。日米修好通商条約を締結したタウンゼント・ハリスも聖公会の信徒でした。

1846年 沖縄に上陸した「ベッテルハイム」。ジョン・バチェラーは北海道にて、アイヌ伝道に情熱を燃やしました。私は宣教師たちの熱い思いに感動します。今のわたしたち、わが身を振り返らざるを得ない。これほどの熱い思いをもっているかどうか。

まず、聖公会の始まりのお話をします。

パワーポイントをご覧ください。

1、コンパス・ローズ 聖公会の正式なシンボルマーク

羅針盤 コミュニオン 166か国

45の管区がある聖公会

聖公会が大切にしているものは、「聖書」

「祈祷書」「洗礼と聖餐式」「法憲法規」「理性」以前、同じ祈祷書・聖歌集・教会規則をどの聖公会も持っていましたが、今は

それぞれの国が置かれている政治・経済・社会・宗教状況の中、独自の礼拝式文、規則を保持しています。

多様性の中の一致を目指して歩んでいる。アングリカン・コミュニオンのエンブレム、コンパス・ローズは、もともとニューヨークの故エドワード・ウェスト氏によってデザインされたものです。現在のデザインは、ギルズ・ブルームフィールド氏によるものです。カンタベリー大聖堂の本堂におさめられたこのシンボルは、1988年のランベス会議の最後の聖餐式において、カンタベリー大主教によって捧げられたものです。大主教は、その使用がますます世界大になることをあらわして、1990年にワシントン大聖堂にも同様のシンボルを、1992年にはニューヨーク大聖堂にオリジナルデザインのものを捧げました。中央



は、聖公会にその起源を思い起こさせる聖ジョージの十字です。十字架のまわりに「真理はあなたがたを自由にする」とギリシャ語で刻まれており、コンパスは、聖公会の世界中への広がりを感じ起こさせます。一番上のマイターは、コミュニオンの教会の核心にある主教制と使徒職の職務を強調しています。 桃山学院創立135年 コンパス 何を指し示すか。どこへ向かうのか。桃教大はどこへ向かうのか。何をこの世界に提示するか。

2、カンタベリーの位置 ロンドン ビクトリア駅からドーバー行きに乗り、

電車で1時間30分ほど 海辺の町 カキ オイスターがおいしい パブは365件ある。ワインとビールは安い 税率25パーセント（公立 幼稚園 高校は無償 医療費も無償 EU 離脱 何とか生きていける社会か？） スコッチウイスキーは高い クッキー シンプルなクッキーは安い チョコレートがまかれていると値段は3倍・4倍になる。



わたしたちの関係学校に英国立教学院 ブライトン行き Guilford 日本の学生 英国で働く商社マン メーカーのこどもたち・家族連れの減少等、多くの学校（青山）が撤退する中頑張っています。

全寮制 食事風景ハリーポッター 周りに何も無い 授業 自習やクラブ活動も入れて、中学生は夜9時まで。高校生は12時まで。残す出来事でした。野村萬斎さんの息子 アルピニスト野口健さんの娘 羊と牛とリスは当たり前、キツネ（親しく寄ってくる）

ローカルな教会も訪問したのですが、教会は情報交換の場であり、今でもコミュニティの中心にありました。隣に必ずパブがある。飲酒運転うるさくないようです。

3、カンタベリー十字架 いろいろな形の十字架がある。チャペル正面の十字架だけでなく。たくさんの種類があります。



4、ケルトの十字架 わたしのペクトラルクロス・主教の十字架はケルト十字架です。

よく聖公会は「中道の教会」と言われます。中間的、どっちつかず。熱くもなく冷たくもない。プロテスタントとカトリックの中間にある。このことは間違っていない。つまり宗教改革のころ、ローマ・カトリックに対抗した・プロテストしたので、確かにプロテスタントです。一方礼拝や歴史的な主教制、さまざまな慣習を継承しているところではカトリックですから両方の要素をもっているということでは、中間と言われるのは正しい。「中道」の意味するところは後でお話をします。しかしそれだけではない。「ケルトの伝統」も持つ。



私が主教に挨拶された時に、信徒の方が作ってくださった主教の十字架は、ケルト十字でした。西区川口にある川口基督教会、是非訪問してください。今、毎日沢山の方が見学に来られる。その時どうぞ屋根を見てください。この絵にも2か所にケルト十字架が掲げられています。

後で詳しく触れますが、597年主教オーガスティンは、ローマから派遣されて英国カンタベリーに到着し、聖公会という教会の歩みが始まる。それ以前から英国にはキリスト教が存在していた。かつてローマ帝国がキリスト教を迫害していた時代 キリスト教徒は逃れ逃れて、英国まで亡命していた。ローマ帝国は広大で強大でした。現在スコットランドの南側までローマ帝国 スコットランド以北にあたりまで、キリスト教徒は逃れて来ていた。当時亡命したキリスト教徒が定着し、すでにそこにあった宗教・文化、すなわちケルトの宗教・文化とシンクロナイズする。ケルト・キリスト教が生まれていく。このような形で土着するキリスト教、これは日本でもキリシタンの歴史の中にも見られます。そこへオーガスティンが伝道に行く。彼はカトリックの ベネディクト修道会の所属。

衝突もしたが、シンクロナイズする。ベネディクト型 非常に合理的 組織的 会則もしっかりしている。聖公会という教会が、法憲・法規を大事にはここから来ている。

勤勉に祈り、働く。

ケルト型 非言語的 感性的を大事 太陽 火 水 大地 風 いのちといった要素を大事にする。アイヌ・沖縄のスピリチュアリティに近い

以前千の風になって という歌がありましたが、ケルト的

ケルト・キリスト教のキーワード ハーモニー harmony 調和

エターニティ eternity 永遠 ハリーポッターの世界もケルト的

聖公会の聖歌集の中にも、この2つのルーツが見られます。楽譜を見せる。

聖歌 カトリックは一声（グレゴリア聖歌）聖歌 298 番

聖公会はハーモニーを大切にする 4 声 聖歌 473 番 アイリッシュトラディショナル

シンボル ケルト十字 ふつうの十字架はローマ十字というのですが、その交点に二重環がついてケルト十字 ケルティック・クロス この二重の輪 外側 宇宙を意味し、

内側は太陽を意味しています。また先ほど申し上げた外側の輪は harmony 調和 内側は eternity 永遠を意味しているとも言われます。聖公会には、このケルト・キリスト教の DNA。合理的 組織的 会則もしっかりしているベネディクト型の DNA が流れているとっていいのではないかと。桃教大の特色にもこうしたこと（カトリック普遍的なものと、宇宙と太陽、調和と永遠）が、いずれ現われてくるのではないかと楽しみにしています。

5、カンタベリー大聖堂 寄り道をしましたが、聖公会の始まりのお話をします。

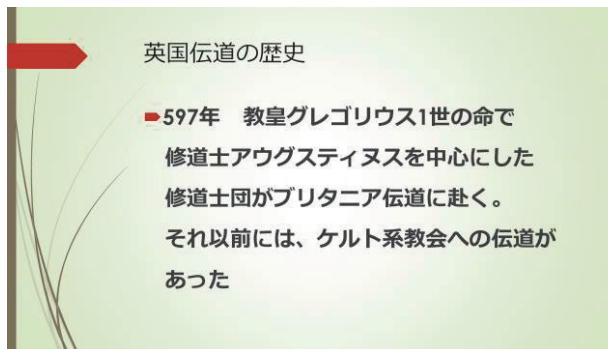
カンタベリー大聖堂を真正面に見ることができる素敵な宿泊所に泊まったことがあります。

聖公会の始まり 16世紀まではカトリック教会ですが、597年 オーガスティン（アウグスティヌス）なぜ英国に来たか。当時ローマ・カトリックで最も力があつた修道会がベネディクト修道会。

6世紀 修道院長グレゴリウスは、ローマの奴隷市場を見回りました。修道院長の大切な務めとして、奴隷市場慰問という働きがあり、その対象の中に、奴隷市場で売り買いされる奴隷たちがいた。現代的感覚

では、奴隷市場はけしからんのですが、時代的な限界であります。その奴隷たちというとほとんどが少年たちだった。ある日グレゴリウスが奴隷市場を訪問すると、少し変わった奴隷たちが目に入った。青い目で白い肌で金髪の少年たちでした。いったいどこから来たのかと付き人に尋ねるグレゴリウス 彼らはアングロから。今の英国から。グレゴリウスが叫んだといわれる。「彼らはアングロ人ではなくアングリだ」アングリとはエンジェル天使のことです。

グレゴリウスはこのような天使のような子どもたちがいる国に、ベネディクト派のキリスト教を伝えたいと考え、計画します。今はローマからロンドン 飛行機で2時間くらいでしょうか。当時は、アルプス越えて、ドーバー海峡を渡って、1年ぐらいかけて。人もお金も用意して。準備を整えたところ、グレゴリウスはコンクラーベ（教皇選出選挙）でカトリックの新教皇に選ばれてしまう。そこで白羽の矢が立ったのが、先ほどのオーガスティンでした。良い迷惑だったのではないかと。なんで自分がと思ったかもしれない。教皇の命令ですから逆らえない。ローマを発ち、アルプスを越え、ドーバー海峡を渡り、たどり着いたのが英国南部今のケント州 海辺の町カンタベリーでした。 → 6へ



7、初代カンタベリー大主教 オーガスティンの椅子

カンタベリー大聖堂の中にこの椅子がある。実は重要なのは建物ではなく、この椅子なのです。奇異に感じられるかもしれませんが。大聖堂はこの椅子を守るための覆いに過ぎないのです。大切なのはこの椅子
川口基督教会にも主教座があります。

大聖堂 カテドラル 椅子のことをカテドラと言います。

私たちの教会 聖公会の教会・学校 何をもって聖公会関係学校か このオーガスティンの椅子とリンクしているかどうかなんです。それぞれの教会・学校 創立されて何年でしょうか。何年であろうと、オーガスティンの椅子から始まる DNA に流れている。そのような中から、米国・英国から宣教師がやってきて大阪教区の種を巻かれた。桃山学院 135年(桃教大は新しい大学。プール学院 140年)是非、597年からすると1422年。



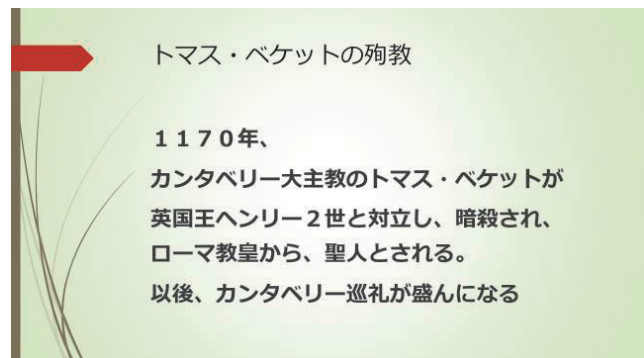
閑話休題 寄り道

8、トマス・ベケットの殉教

ヘンリー2世の登場前の20年はイングランドは内乱で大混乱していました。ヘンリーによって平定 改革に取り組む中に、聖職者裁判権というのがあり、世俗の裁判所と分離されていました。聖職者たちは大変恩恵に与っていました。

本来は重罰なのに、軽罰ですんでしまう。それを制限しようとして、ヘンリー2世はトマス・ベケット大主教と対立します。ヘンリーは独り言で、誰も聞いていないと思ってつぶやいた。「ベケットの野郎 こんちくしょう ぶっ殺してやる」と言ったかどうかはわかりませんが、そんな品のないことをいったかどうかはわかりませんが、それをカーテンの陰にいた部下の武将たちが聞いて、勝手に暗殺に向かってしまいます。ヘンリーはベケットを殺したくはなかった。殺そうとまでは思っていなかったのです。→ 9

9、トマス・ベケット殉教記念の地下チャペル 礼拝堂 祭壇 ナイトハイクしました。夜ローソク片手に、大聖堂の中を散策しました。ところがトマス・ベケットの死後、カンタベリーでいろいろと不思議なこと、奇跡が起こる。人々の間にベケットを聖人と考える噂が広まり、ベケット人気



高まり、カンタベリー巡礼が盛んになり、今に至る。

誰もいないと思って、あらぬことを口走ってはならないという、戒めともなっている。

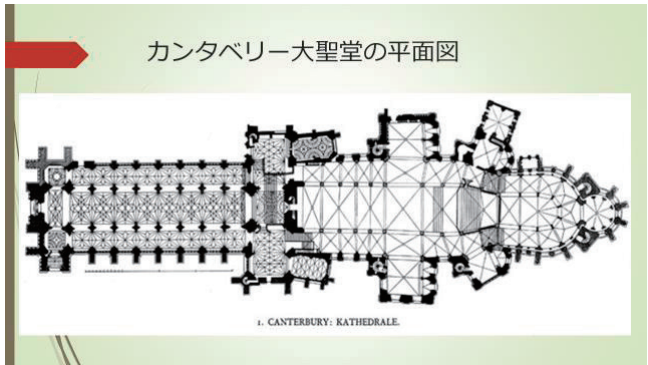
10、カンタベリー平面図 12世紀

11、大聖堂内部 この手前 クワイア一席です。 聖歌隊（500年歴史を持つ男子のみの聖歌隊でした。 こども聖歌隊

そのこどもと大人の聖歌隊 大人の聖歌隊があり、遂に、数年前には女性の聖歌隊が誕生しました。 4つの聖歌隊、それはみごとな礼拝でした。特に、その伝統的なイーブン

ソング・晩祷はすばらしいです。 月～金曜日は5:30 土・日は15:15) 一方ローカル教会では、伝統的なものを大切にしながら、チャレンジしている姿が見受けられました。 9:00伝統的な礼拝 11:00はゴスペル・ロック……………。

12、大聖堂 航空写真 もうできて1000年近い どこか工事をしています。わたしたちの人生と一緒にです。いつも工事中。外側ではなくても、いつも中身は、日本聖公会、桃山学院、桃山学院大学、桃山学院教育大学、プール学院も工事中です。



13、大聖堂全景



1 4、聖オーガスティン修道院

聖オーガスティン修道院



1 5、聖マーティン教会

聖マーティン教会



1 6、聖マーティン教会説明

聖マーティン教会

- 現役の教会としてはイングランド最古ともいわれる。
- 4世紀半ばに建てられたといわれる。
アウグスティヌスの生涯のステンドグラスがある。

1 7、カンタベリーの町

カンタベリーの町

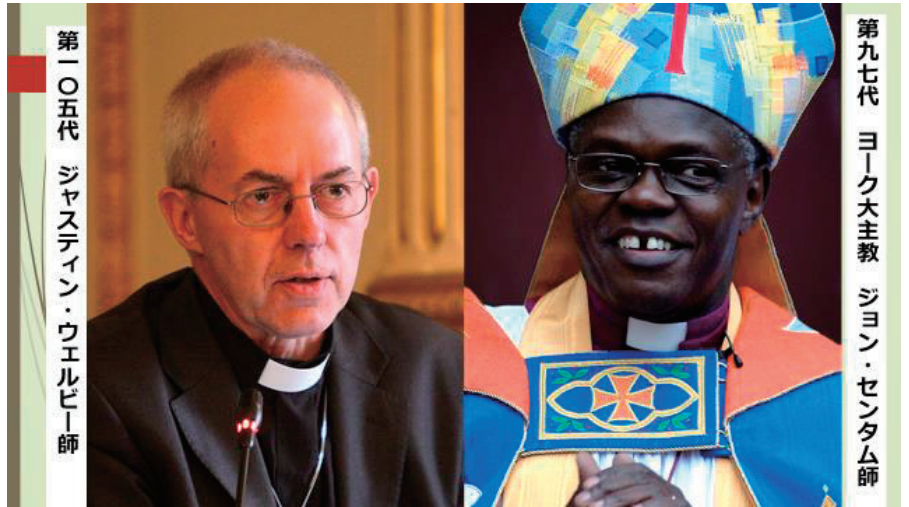


18、105代カンタベリー大主教 ジャスティン・ウェルビー

カンタベリー大主教とローマ教皇フランシスコ 19組の聖公会の主教とカトリックの司教のペアを作り、それぞれの地域で、協働の働きへと派遣した。

フランシスコ教皇「1400年前」、教皇グレゴリウスはオーガスティンを派遣して初代カンタベリー大主教とした。その目的は、神の福音を伝えることにあった。同じように私はあなた方を派遣する」

ジャスティン大主教 「主の平和」をもたらすためにあなたがたを派遣します。



右側の方 カンタベリーの次に有名な、ヨーク管区 第97代大主教 ジョン・センタム。英国史上初めてのアフリカ出身の聖職者で大主教。ウガンダで裁判官をされていた。アミン大統領独裁政権に抵抗、国外追放英国へ。聖職者となり、大主教となられた。貧困差別 人権 青年活動に深い関心 イラク戦争の時、ヨーク大聖堂の中にテントを張って、戦争中止を訴えてハンストをされた。

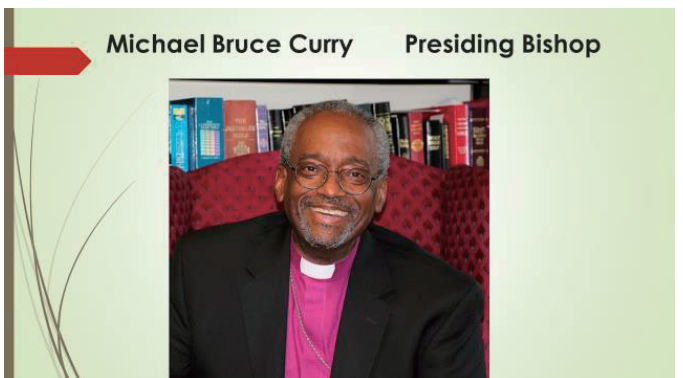


19、英国初の女性主教 補佐主教 リビー・レイン

按手式に反対派の代表が出席 大切なのは対立でなく一致なので 出席する。ことばは印象的でした。

20、アメリカ総裁主教 初の黒人総裁主教 (カリー総裁主教)

この前ショーリ総裁主教 初の女性総裁主教



聖公会という教会が大切にしてきたもの

聖公会 ゆっくりですが、変化しています。聖公会が大切にしていることのひとつに **Church becoming** になっていくこと 完全に向かって、なっていくこと。

<背景にあるもの>

聖公会 「聖書」 「伝統」 「理性」を重んじる 最近は4つ目として「経験」ということを言われる方もある。英国で自然科学が発展した理由には、「**理性**」を大切にす雰囲気があるから。ニュートン、ダーウィンは聖公会です。ダーウィンはケンブリッジの神学生だった。先ほど中道

聖公会が大切にしている言葉に「**ヴィアメディア**」があります。まさに聖公会のキャッチフレーズです。VIA MEDIA と書きます。直訳すると「中道」 どちらつかずですな。中途半端ですな。と言われると返す言葉がないのです。実際はそのような意味ではありません。「**わたしたちは真理を求めて歩む旅人です。**」ということなのです。わたしたちは旅人で、その道しるべが聖書や伝統や理性だということです。真理を求めて旅をし続ける旅人というのが、このヴィア・メディアの意味です。真理を求めて歩み続ける旅人の群れが聖公会という教会理解。桃山学院 建学の精神 自由と愛のキリスト教精神による人格の陶冶、世界市民の育成 あまり言葉かが上手でない。慶応 福沢諭吉の精神「**独立自尊**」

早稲田「**学の独立**」同志社 新島襄「**良心の全身に充満したる人物**」

聖公会は上手でない。立教 「**道を伝えて己を伝えず**」 桃山学院の底流を流れるものは、「**我ら真理を求めて歩む旅人である**」



聖公会という教会が大切にしてきたもの

- Church Becoming
- 「聖書」 「伝統」 「理性」
- 最近は「経験」ということを言われる学者もいる

聖公会が大切にしていることば

- わたしたちは
- 真理を求めて歩む
- 旅人

聖公会が大切にしていることば

- VIA MEDIA
- ヴィア・メディア
- 中道

中道、ヴィア・メディアの精神は、どこから生まれたのか。先ほどは1400年も前の話でしたが、1000年時計を進めます。16世紀の宗教改革の時代。イングランドは、改革が順調には進みませんでした。ヘンリー8世の離婚騒動に始まったといわれる宗教改革です。当時を世界を支配していたカトリック教会と神聖ローマ帝国スペインに対して、独立したいという思いが当時のヨーロッパに充満していた。それはイングランドもそうだった。改革路線とその反動の繰り返しがあった。一方が他方の主張を踏みつぶすとしてきた過去の権力闘争を避けて、むしろ両者の主張に耳を傾けながら、真理は人間の判断を超えた神にあるとして、絶えず真理を求めて旅する者でありたい、中道の道を選んだ。当時のカトリック教会の伝統絶対主義、教皇絶対主義はとらない、極端なピューリタンの聖書絶対主義をとらない、あらゆる絶対主義を嫌うのが聖公会。「答えはこれです」とは言わない。答えは神にあるので、絶対主義に陥らないように。あくまで、我々は真理を求める旅人だ 神の国の完成を目指して旅の途上を歩む者 あらゆる絶対主義に反対する教会が聖公会。そのDNAが教育の現場にも流れている。

ニーバーの祈り 聖公会にふさわしい祈り

神よ、

私に変えることのできないものについては、

それを受け容れる心の平静さをお与えください！

変えることのできるものは、

それを変える勇気をお与えください！

そして変えられるものと変えられないものとを、

見分ける英知をお与えください。

そうした聖公会だが、今女性聖職問題、性的マイノリティ 同性愛の主教の按手を認めるかどうか。根深い対立がある。

2020年ランベス会議招集 対立を超えて集まることができるか。

チャーチ・ビカミング になっていくこと 充全なものに向かってなっていくことができるかが大きな課題となっています。

21、今回の参加主教たち ACO アングリカン・コミュニオン・事務所スタッフと共に



2020年にはランベス会議は開催されようとしている。

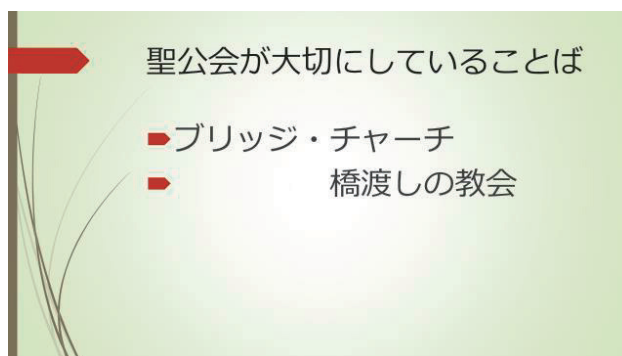
共同体を大事にする聖公会 チャリスとパテンを聖卓においておく。

沖縄ガラスの聖餐式で用いるチャリスとパテン 昔聖公会の礼拝は、東面、会衆にお尻を向けて礼拝をささげていた。今司祭は会衆の方を向いています。食卓を囲んでいる。戦争の経験、対立や争いから解放されよう。最後の晚餐のように集うことを大切にしよう。主の食卓に集うとき、キリストのお体と血によって養われるすべての人々と一つのコミュニティを形作ります。チーム。それは信者だけではなく、教派や宗教を超えて、皆に開かれた、みんな手をつなごうという意味をもっている。

聖公会は共同体（同じ釜の飯を食う仲間）ということ大切にしている教会だということです。世界に44管区、その働きは165か国に広がっています。日本におりますと、聖公会はとても小さな群れと感じます。しかしこの研修会では、一個の施設とか一つの国という枠にとらわれないで、世界的な広がりをもった共同体の一員であること、大きな家族の一員であることを学びました。先ほどは時空を超えたつながり、空間的なつながりです。日本では、様々な共同体が壊れて行っています。共同体を大切にしている聖公会として、どういう共同体を形成し、訴えていくか。

大学は一つの共同体ですが、それにとどまらず、地域の人々とも有機体的なつながり（ブリッジチャーチ 橋渡しの教会）を創造できればと思います。

23、聖公会はブリッジチャーチ エキュメニカルな対話、教会間対話、宗教間対話に積極的な教会です。カトリック教会 ルーテル教会は様々なレベルで深いつながりを持っています。たとえば日本聖公会と日本福音ルーテル教会は相互の洗礼を承認し、ユーカーリスティック・ホスピタリティと言って、それぞれの聖餐式に互いの信徒を招くことが公式に可能になっています。この精神、桃教大の精神の中にも流れています。今後、地域との連携、橋渡しの役割が期待されていると思う。



先導者として コンパス・ローズ 羅針盤

預言者的使命 不透明で困難な時代に合って教会の進むべき道筋を示す。

主教職 先導者として教会・世界・社会の方向性、ヴィジョンを提示する。

各教会に主教座がある。教会の使命 主教と共に担っている。

学校には主教座はありません。しかし、主教座にルーツあるものとして未来へのヴィジョンをこども・生徒・学生に指し示す使命がある。そのことを聖公会関係学校である桃山学院は大切にしたい。

24、桃山学院のはじまり

大学は12世紀頃パリで始まったと聞いたことがあります。教えた人がいて、学びたい人が集まって来て大学ができた。最初は皆神学部だった。そこからいろいろな学部が生れていった。神さまが創造された世界を探求するうちに。

イングランドとフランスの争いがあったり、パリへ行けなくなってイングランドにも大学ができます。イギリスの大学
イギリスに誕生した聖公会 最初はイギリス人のための教会でした。おもしろいことに、英国では教会内のことは聖職会議で諮られ、決定できましたが、国民教会として関連数 r 事項は国会の同意が必要でした。それは1960年まで続いた。上院には聖職がいましたが、下院は信徒によってのみ構成されていたので、否決されることもあった。イギリス人が海外へ出て行く。教会も出て行くのですが、初めはイギリス人のため。

教会に犬とインド人は入ってはならない。中国人は入ってはならないなんてひどい立て看板があった。それが議会で取り上げられ、そんなことでいいのか。

宣教団体ができ、行った先の国のこと。人々のことを考えるようになっていく。

ここでもなっていく。気づいていく訳です。国内の教育、医療、福祉だけではなく、行った先の教育、医療、福祉を考える。特に、明治初期、日本には、キリスト教の布教だけではなく、医療・教育。福祉活動が必要だ。（これは鎖国前、ザビエルの時代のカトリックの宣教師たちもすでに気が付いていた。）

ウィリアムス主教 東京へ 大阪 西日本で活躍する宣教師 C.F.ワレン 宣教団体CMS 自分のこどもたちの家庭教師として東洋女子教育協会のM.J.オクスラドという女性の宣教師を招く。この方がプール学院の前身となる女子の学校を開設する。1877年 1879年永生女学校と命名。そこに教会の信徒のこども男子も学んでいた。しかし女子生徒が増えたため、男子が同校で学ぶことが困難になった。ワレンたちは協議を重ねて男子校を設立することにする。1884年三一小学校開校。これが現在の桃山学院の前身。同時に聖三一神学校（牧師の養成）を開校。これも桃山学院の源流となる。ワレン 昭和町桃山学院中高があります。そこにワレンの胸像があり、桃山学院の創設者と刻んである。実はそうではない。同志社の新島襄 関西学院のランバス と言った創設者はいない。

聖公会と大学 ケンブリッジ大



聖公会と大学 オックスフォード大

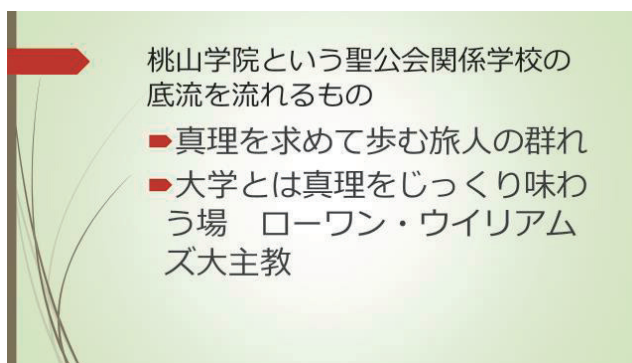


プール学院は5歳年上のお姉さんだった。この泉ヶ丘にあったプール学院大が桃山学院に統合となり、桃教大が誕生する。同じ聖公会の学校という縁があつてのこと。今、プール短大と桃教大という二つの大学が併存しているのも聖公会リーグだから。

26、キリスト教大学 桃山学院という聖公会関係学校の底流を流れているもの

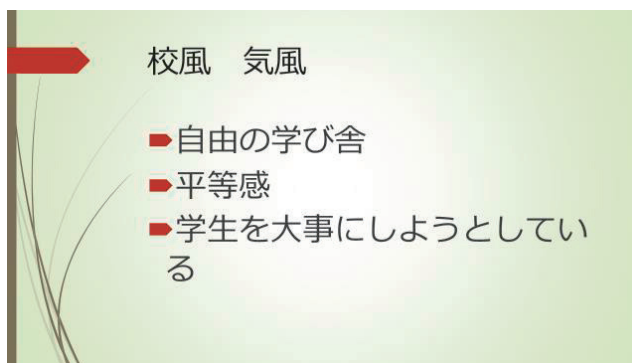
150年以上ものキリスト教宣教の働きの結果、日本のキリスト教人口が1%に満たない。しかしキリスト教学校は、プロテスタントだけでも100以上。存在意義 社会的影響力 社会的責任

- ① 聖公会という共同体は、真理を求めて歩む旅人の群れである。10年前当時のカンタベリー大主教 ローワン・ウィリアムズ師は、「現代社会における聖公会大学の使命」という題で立教大学で講演をされた。その中で、「大学とは真理をじっくりと味わう場」と語られた。真理を味わい、食べる場としての大学。
- ② 校風として 桃山学院、プール学院 自由の学び舎 平等感がある。教員と職員



民主主義ではなく、神の前の平等 そういう雰囲気がある。自由 神による自由

③学生を大事にしようとしている。大事にされていると感じる。ヒューマニズムではなくて、神によって愛されている。聖書にガラテヤの信徒への手紙 5：16 律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからである。

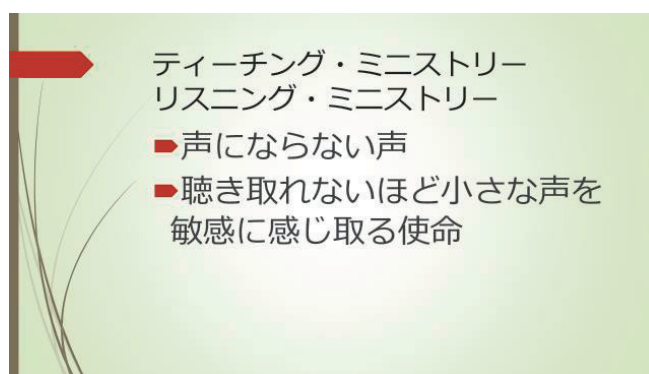


「一人一人の学生に、「あなたの存在こそが大切である。」「神から愛されている存在である。」校風、気風、雰囲気なんです、あなたの存在は大事なんだ。ということが大学の底流を流れているからかな？ ボランティア活動に積極的な学生さんが多い。ことばではつきりとは語られてはいないのですが、真理を求めて歩き続ける旅人である。あなたの存在が大切であるということが、大学の底流に流れている。

学問・研究・課外活動、国際交流を通して、このことが学生さんたちに伝えられているか。そして隣人を愛する。世界に貢献する人になる。ということが伝えられているか。これがミッションスクール、キリスト教主義大学の使命ではないか。

- ④ティーチング・ミニストリーとリスニング・ミニストリー

主教研修会の中で、印象的であったことば、ティーチング・ミニストリーはまた、リスニング・ミニストリーである。教えるためには聴くことのできる人でないといけない。主教であるわたしは、皆さんの声をちゃんと聴いているだろうか。主教職の重要な働き。聖職・教師の重要な働きでもある。学校の先生方、こどもたち、保護者、地域、社会の声、人々の人生の物語に耳を傾けることができているか。声なき声、小さな声を聴き、大切にするということが大学の重要な使命かと思います。



前カンタベリー大主教ローワン・ウィリアムズ師のことばを最後に味わって終わります。
2007年南アフリカ・ヨハネスブルグ アングリカン・コミュニオン宣教会議説教
世界の紛争 貧困 災害 暴力 環境 難民 飢餓・・・・

「聖歌隊の指揮者にとって最も重要な任務は、大声を出して歌う人や、音を外している人に注意を与えることではない。その任務とは、声の出ていない人、聴き取れないほどの小さな声の人の存在を、敏感に感じ取れることだ。そして、『あなたの声が聴こえなければ、この聖歌隊はない方が良いのだ』と語りかけることなのだ。」

以上

参考文献

塚田理「聖公会の伝統を探る」聖公会出版、2012年

塚田理「イングランドの宗教—アングリカンニズムの歴史とその特質—」教文館、2004年

塚田理「日本聖公会の形成と課題」聖公会出版、1978年

西原廉太「聖公会が大切にしてきたもの」聖公会出版、2010年

西原廉太「続聖公会が大切にしてきたもの」聖公会出版、2012年